

# まつどミュージアム

No. 6 1998年(平成10年)3月



八日節句<12月8日>松戸市新作奇藤家で復原

## ■「福」への願い■

カゴを取り付けた竹の棒を庭先に構える、運動会の玉入れのような光景は、かつて松戸市域で行われていた八日節句のひとつを再現したものです。12月8日には、お金が出ていかないようにとカゴの口を下に向け、2月8日には天から降ってくるお金が入るようにとカゴの口を上に向ける。この行事は、細部に多少の異同が見られるものの市川市・流山市をはじめ江戸川を挟んだ三郷市や八潮市、利根川を越えた茨城県取手市・竜ヶ崎市にも及んでいました。この行事には、一つ目小僧を退散させる意味合いを込めている地域も広く見られ、上述の招福行事とは異なる物忌みの行事として伝承されてきた地域、あるいは両者が併存して伝承されている地域も見られるなど、複雑な展開を見せています。

取手市では2月8日は恵比須が椀ぎに出かける日、

12月8日は恵比須が椀いで帰ってくる日と伝えられ、下総地域ではこの日を大黒の日と伝えられています。松戸市域では、現在のところこのような伝承は確認されてはいませんが、何らかの「福」がもたらされる日であるとは理解されていたようです。この日には、早朝、庭にお金がかかれ、それを拾うことが子供たちの楽しみであったといえます。

2月8日に出かけていき、12月8日には帰ってきてその家にお金をもたらす恵比須や大黒は、福神の典型的な姿と言えますが、この二神をはじめとする七福神のみならず、幸福をかねてくれる神様はさまざまな形で人々の生活に広く、そして深く関わってきました。景気回復の糸口が見つからない今日にあって招き猫がはったり、日常生活の中に招福の意匠がひんぱんに見受けられる状況の中に、上述してきた行事や伝承を支えてきた人々の心根が今なお息づいていることを読み取れないでしょうか。



八日節句<2月8日>

## 福神の世界

人々に福をもたらす福の神は、あまたの神々の中でもとりわけ親しまれてきました。世の中の動きとともに人々の福神に対する信仰も盛衰をくり返してきています。不況といわれる昨年、福神に関するイベントが相次いだり、招き猫が流行したりすることにも、福神に対する信仰の一つの姿を見ることが出来ます。

この展覧会では、このように流行する福神に関する資料だけでなく、松戸市域などで今では忘れ去られてしまった福神、招福の行事なども紹介しながら、かつて福神がいかに日常生活の中でいきいきと活躍していたかを、現在の福神をめぐる状況と対比させながら考えてみます。

■会期：平成10年3月21日(祝)～5月10日(日)

■会場：松戸市立博物館企画展示室

■展示内容

Ⅰ 福とは…幸運に恵まれることを「福が付く」といいますが、この福とはいったいどんなものでしょうか。人々が考えてきた福の世界について、熊手や宝船などの資料、饗替などの行事から迫ります。



大島神社開運御守熊手 前掲



若宮神社宝船 前掲

Ⅱ 福神とは…福を司り、授ける神を福神といいますが、福神という特定の神がいるわけではありません。代表的な福神である七福神の他に、それとは対照的な后神に対する信仰の姿もみながら、人々にとって福神とは何かを考えます。



大黒像 個人蔵



三面大黒天像 寺川町 高橋氏蔵

Ⅲ 福神の姿・福の形…私たちの日常生活の中には実に様々の福神・福に関する言葉や造形をみることが出来ます。郷土玩具やめでたい図柄、招福の文字なども含めて、人々に親しまれ、生活の中にとけ込んでいる福神の姿を見ていきます。



埼玉土人形 七福神  
武蔵野美術大学美術資料館蔵



神元之巫女の講談 伊藤繁二郎氏 個人蔵



長壽熊子像 北野善吉氏 個人蔵  
白旗記念館蔵博物館所蔵



ビリケン熊の籠馬 個人蔵

■展示資料

七福神の人形・絵・面・お札、お多福・ひょっとこ面、福助、だるま、招き猫、鶯、祝鯛、宝船、福升、熊手、獅子頭など、松戸市内をはじめ全国各地の資料約220点。

■記念講演会

①「福の神の姿」

講師：田村善次郎氏（武蔵野美術大学教授）

日時：4月26日(日)午後1時30分～3時

②「福の神の信仰」

講師：宮本製炭雄氏（武蔵大学教授）

日時：4月29日(祝)午後1時30分～3時

■関連講演会

「松戸の福の神」

講師：青木俊也（本展示担当学芸員）

日時：4月19日(日)午後1時30分～3時

■展示解説会

講師：青木俊也

日時：4月12日(日)午後3時～4時

5月5日(祝)午後3時～4時

＊応募方法等については市立博物館までお問い合わせ下さい。

## 平成 8 年度 活動より

★以下のような講演会が開かれました。

### ◆特別展「シルクロードとガンダーラ」展 記念講演会

4/13 「インド世界と仏教文化」  
(立教大学教授 中西正建氏)

4/20 「ガンダーラの仏伝図」  
(東京国立博物館インド南東アジア室 小泉恵美氏)

5/3 「仏教文化の東伝—中国そして日本へ」  
(東京国立博物館中国美術室長 松本伸之氏)

5/5 「もう一つのシルクロード—草原の道」  
(創国大学教授 林俊雄氏)

### ◆食文化講座

7/6 「植物食からみた日本の食文化」  
—トナメシとナンシヤウの食べ方をめぐって—  
(聖徳大学短期大学部教授 富岡和夫氏)

7/13 「動物食からみた日本の食文化」  
(国立歴史民俗博物館助教授 西本豊弘氏)

### ◆巡回展「ネアンデルタール人の復讐」展 記念講演会

11/9 「ネアンデルタール人とのお会い」  
—デリエ工例題の発掘から—  
(国語学文化研究所教授、日本文化合同発掘調査隊長 赤澤威氏)

### ◆松戸の歴史を語る

11/23 「近代の松戸—その都市化へのあゆみ」  
(神戶芸術工科大学名誉教授 坂本勝比古氏)

11/30 「歴史入門」  
(流通経済大学教授 小山田義夫氏)

### ◆学芸員連続講演会

3/1 「松戸に来た徳川慶喜」  
(伊豆歴史館 柏木一朗)

3/8 「シリア北西部の遺跡を掘る」  
(松戸市立博物館 倉田恵津子)

3/15 「ガンダーラの仏塔を掘るⅢ」  
(社会教育課 崎村 篤 松戸市立博物館 古川隆夫)



### ★みんなの体験教室

#### 「水くみ&



#### 「たらいと洗濯板を使って洗濯体験」

教育展「教科書のなかの道具とくらし」の一環として、8月19日～21日の3日間、「水くみ&たらいを使って洗濯体験！」を行いました。手桶に水をくみフーフーした足取りでたらいまで運びます。そして洗濯物に固形石鹸をつけて洗濯板でゴシゴシ洗います。洗濯板がやけに気に入ってしまって「これから靴下は毎日僕が洗う！」と宣言してお母さんを喜ばせていた子、連日洗濯物を持ってやって来て初めてのお友達に教えてあげていた子、洗濯板で指までこすって皮がむけてしまった子、計71人の子ども達が汗をかきかき洗濯に挑戦しました。「洗濯機がなかった時代、お母さんはこうやって家族みんなの洗濯物を買っていたんだね」、「あんまりゴシゴシすったら破けちゃうね」、「洗濯するの時間がいっぱいかったんだらうね」、などと話しながら、暑い夏空の下、博物館のテラスには子ども達の洗った洗濯物が風になびいていました。



## ●アンケートボックスの中の声●

Q: 江戸時代、松戸の納屋河岸にあった江戸川を行き来した船の積み荷はなんですか？ また、どこに運ぶのですか？

A: 江戸時代の江戸川は、現在の高速道路と同じように物資の流通路だったのです。トラックが高瀬舟等の川船で、川の港「河岸」がトラックターミナルと同じ働きをしていました。江戸川を下る川船の積み荷は、上流の利根川水系各地で生産されたお米(年貢米を含む)、小麦、大豆・小豆・味噌・醤油・味噌・酒・茶・たばこ・木材・炭薪・麻・野菜等のほか、桐生、結城、真岡などの絹・紗・木綿の布・織物、利根川河口鏡子からは九十九里浜、鹿島灘近海で獲れた鮮魚・干鰯、アベ(肥料)等の海産物、東北地方太平洋岸の藩領の年貢米・海産物、さらに遠く北海道松前周辺の鮭・昆布等の海産物や木材等、

今では想像もできないくらい多種、大量の物資が江戸川を運んで運ばれていました。川を下る船の終着は、天下の城下町江戸です。

反対に江戸川を上る川船には、江戸で積み込まれた練綿・太物・古着等の着物、小間物・清酒・砂糖、行徳の塩・酢・醤油・糠・粕・米麹・水油(灯し油)・鍋釜・薪炭・瀬戸物・傘・下駄・草履・紙燭・砥石・鎌・畳・畳表・板面・蚊帳等が、江戸川・利根川を運んで関東内陸各地へ運ばれています。ほかに、松戸周辺の江戸川では、江戸の各地や武家屋敷から買い入れた糞尿(肥料)を運ぶ専用の「おわい船」(葛西船)が行き交っていました。

物資以外では、関宿や松戸と江戸の間を毎日就航する茶船が、東北地方や佐原・鹿島方面と江戸の間を移動する旅人を運んでいました。

平成10年度 博物館行事 INFORMATION (4月～9月)

●講座 「街の生活再発見」(全11回) 毎月第1日曜日

中世の資料を読む(連続全6回)

5月7日・21日・6月4日・18日・7月2日・16日  
各日18時30分～20時

古文書を読む(近世中級編)(連続全10回)

9月16日～11月18日の毎週水曜日  
各日10時30分～12時

●体験教室

縄文時代の布をつくる(連続全5回)

5月16日・17日・30日・6月6日・7日  
縄文時代の布、編布の復元製作。原料のカラムシ(植物)の採集から、繊維取り、糸撈り、編布製作までを体験します。

●講演会・その他

館内公開 4月5日 11時～14時～各1時間

映像でみる歴史と文化

「福を呼ぶ運を呼ぶ 七福神」

5月2日「えびす様」/3日「大黒様」  
4日「福祿寿・寿老人・布袋」  
5日「毘沙門天・弁財天」  
各日14時～14時30分

映像でみる昭和の記録

8月6日・9日・15日 各日14～15時

●小学生対象行事

体験教室「古代米をつくる」(連続全7回)

5月10日・17日・7月5日・8月9日・9月13日・20日・10月4日

古代米といわれる赤米、黒米を育てます。田植え、草取り、かかし作り、稲刈り、穀穀を体験し、最後は収穫したお米を味わいます。

夏休み体験教室「布を織る」

7月29日・30日・31日・8月19日・20日・21日(左記のうち1日を選択)  
織り機を使って突き織り体験。古くなった布を再生する昔の人の知恵を学びます。

夏休み聖穴教室「縄文時代の暮らし」 8月7日 13～15時

縄文時代の話や、火おこしや土器での煮炊き体験など、聖穴住居のなかで当時の生活を体験します。

一日学芸員 8月2日 13～16時

学芸員の仕事を体験しながら、博物館の活動を楽しく学びます。

博物館のハイビジョン

大変ご好評をいただいている博物館のハイビジョン。毎日上映致しますのでご都合にあわせてご覧いただけます。100インチのクリアな大画面を、毎月お楽しみください。

★上映開始時刻

平日	土・日・祝
① 13:15	① 11:00
② 15:15	② 13:15
—	③ 15:15

★観覧無料 ★場所 博物館講堂 ※都合により予定を変更する場合があります。

月	ハイビジョンタイトル	上映時間
平成10年4月	小さな旅/老杉は雨に美しく一日光 杉木一	28分
5月	小さな旅/花巻る江戸の心を訪ね来よ-紅 船越い-	28分
6月	小さな旅/いのち輝く緑の帯-埼玉屋 見沼田んぼ-	28分
7月	世界文化遺産/合掌作り	45分
8月	いのち輝け地球/川は生きている	20分
9月	ハイビジョンでみる古代史の謎	30分

ふくのみ  
■特別展「福神の世界」

3月21日(祝)～5月10日(日)

見ているだけでめでたくなる。知れば知るほどめでたくなる。私たちの生活のなかでそんなふうに残されている福神。福とは何か?福神とはどのような神様なのか?その信仰は?福神の姿にせまります。

■新収蔵品展

7月18日(土)～9月23日(祝)

平成5年の開館以降収集した資料を一般公開します。

■企画展「水戸道中 宿場と旅人」

10月10日(祝)～11月23日(祝)

水戸道中の宿場として繁栄をきわめた松戸と小金。江戸から水戸までの道中の景観や旅人の風俗、各宿場の様子を紹介し、往時の街道の姿を復元します。わらじをつけた旅人になったつもりで江戸時代の松戸をのぞいてみましょう。

■教育展「教科書のなかの道具とくらし」

平成11年 1月23日(土)～3月14日(日)

小学生を対象に、教科書に登場する昔の生活道具の実物を展示します。実際に触れて体験できる場も多く用意します。主に小学生3年生の社会科学習にご利用ください。

■特別展「貝塚を考える」

平成11年 3月27日(土)～5月16日(日)

松戸には日本を代表する縄文時代の貝塚が数多く存在します。貝塚から何がわかるのか?貝塚はどのようにつくられたのか?日本の貝塚の特徴とは?縄文人が残した貝塚は私達に何を語っているのでしょうか。

▶上記の行事についてのお問い合わせは

☎ 047(384)8272 教育普及係まで

利用案内

★開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分迄)

★休館日

月曜日但し祝日にあたる時はその翌日

館内整理日(毎月第4金曜日)

夏休み期間(6月29日～7月6日)

年末年始(12月27日～1月4日)

★観覧料

区分	個人	団体
一般	300円	240円
高校生・大学生	150円	100円
小学生・中学生	100円	60円

・小学生未満は無料です。

・団体は20人以上。

・第2・4土曜日は小学生は無料です。

・企画展・特別展は観覧料をいただくことがあります。

★交通

新京成線八柱駅・京武武蔵野線八柱駅下車

新京成バス小倉原団地行き

「公園中央口」下車

まつどミュージアム No. 6

発行日 1998年(平成10年)3月31日

編集・発行 ☐松戸市立博物館

〒270-2522 千葉県松戸市千駄堀671

☎ 047-384-8181